

2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.2

5.3[sat] -4[sun]

[place]

富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather]

sat 晴れ / sun 晴れ

[spectators]

82,500人 (sat 33,300人 / sun 49,200人)

FUJI SPEEDWAY

Rd.1 OKAYAMA >>>> APR 12-13

Rd.2 **FUJI** >>>>>>>> MAY 03-04

Rd.3 SEPANG >>>>> JUN 27-28

Rd.4 FUJI >>>>>>>> AUG 02-03

Rd.5 SUZUKA >>>>> AUG 23-24

Rd.6 SUGO >>>>>>> SEP 20-21

Rd.7 AUTOPOLIS >>> OCT 18-19

Rd.8 MOTEGI >>>>>> NOV 01-02



TOM'S



40kgのサクセスウェイトを搭載しながら、
力強い追い上げを披露し 2 位表彰台を獲得。
ライバルとのポイントを広げる。

2025 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL が、5 月 3 日（土・祝）、4 日（日・祝）に静岡県富士スピードウェイで行われた。開幕戦で優勝を果たした #1 au TOM'S GR Supra（坪井翔 / 山下健太）は、40kgのサクセスウェイトを搭載しながら、7 番グリッドから終始力強い走りで順位を上げていき、2 位表彰台を獲得した。



1






SHO TSUBOI 坪井 翔
KENTA YAMASHITA 山下 健太

TGR TEAM au TOM'S

Rd.2 Result

Qualifying 7 位	>>	Driver Standings 1 位
Race 2 位		Team Standings 1 位

Qualifying 1	山下 : P5 / 1'26.918
Qualifying 2	坪井 : P7 / 1'26.719
Race	坪井 : 1'29.926
ファステストラップタイム	山下 : 1'30.709

QUALIFYING

天候：晴れのち曇り／気温：20℃／路面温度：33℃



重いサクセスウェイトをはねのけ、 山下が渾身の走りでQ1を突破。 7番グリッドから追い上げ目指す。

前回の岡山大会で優勝を果たした1号車は、40kgのサクセスウェイトを搭載し今大会に臨む。毎年、ゴールデンウィーク期間中に開催される富士スピードウェイでのRound2。搬入日は荒天に見舞われたが、予選日になると朝から青空が広がる晴天となった。午前の公式練習では好タイムを出す場面もあったが、最終的に13番手タイムでセッションを終了。これまで公式練習後のセッティング変更は、微調整程度が多かったが、2人のドライバーから得たフィードバックをもとに、今回は大幅に変更を行った。

全15台のうち上位10台が次のラウンドに進出できる予選Q1は、山下が担当。40kgのサクセスウェイトを搭載していることもあり苦戦が予想されたが、その不安を払拭する走りで1分26秒918を記録。5番手でQ1突破を果たした。続くQ2は、坪井がマシンに乗り込んだ。実は公式練習で小さなトラブルがあり、ニュータイヤでの走行ができておらず、手探り状態のなかでタイムアタックに臨んだが、それを感じさせない走りで1分26秒719を記録し、7番手につけた。

Race

天候：晴れ／気温：24℃／路面温度：38℃

山下が中盤の苦しい場面を耐え、 坪井が終盤に快進撃を披露。 チームが一致団結し、 2位表彰台を勝ち取る。



7番グリッドから3時間レースに臨んだ1号車は、坪井がスタートを担当した。1周目からライバルたちと抜きつ抜かれつのバトルを展開しつつ、前のマシンを追い抜いていき、34周目には4番手に浮上。スタートから1時間を経過した39周目に1度目のピットストップを行い、山下に交代。3番手でレース中盤に入った。

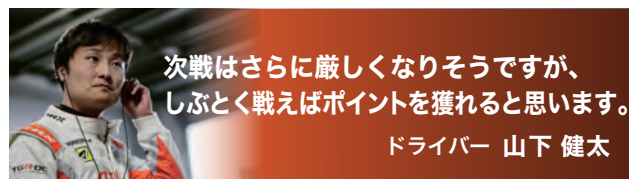
ここから上位のライバルを追いかけたいところだったが、逆に後を走るライバルのペースが良く、守る場面が多い展開となった。それでも、山下は冷静に順位を守ると同時に燃費も意識した走行を徹底し、80周目に2度目のピットストップを行った。これまでの状況を考慮して、コンディションに合ったタイヤを選択し、坪井がラストスパートに入る。

ピットアウト直後から1分30秒台のペースを維持し、ゴールまで残り45分のところでライバルを1台パスして2番手に上がる。この時点でトップとの差は30秒以上あったが、諦めずに追いかけていった。逆転することは叶わなかったが、最終的に11.9秒差まで差を縮め、2位でフィニッシュ。今大会も王者の貫禄をみせるレースを披露した。

TOM'S



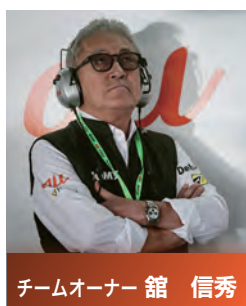
予選 Q1 を通過するのは少し厳しいかと思っていましたので山下選手が Q1 を通ってくれて良かったです。僕は Q2 で初めてニュータイヤを履くという状況でしたが、失敗することなく走り切ることができました。7 番手スタートということで、決勝は表彰台も狙えると思っていました。第1スティントでタイヤをマネジメントして最終的に順位を上げられました。中盤は山下選手が苦しいなかでも耐えてくれたおかげで、最終スティントでどのタイヤを選ぶべきか判断ができました。表彰台は狙っていましたが、まさか2位に上がれるとは思っていませんでしたので、本当に良かったです。



公式練習の段階ではフィーリングがあまり良くない感じで、1号車としては珍しく公式練習から予選にかけてセッティングを大幅に変更しました。それが良い方向にいきました。決勝では、僕が乗り込んでピットアウトしてから「これは厳しいかもしれない」という感触でしたが、簡単に抜かれるわけにもいかなかったので、燃費もセーブしながら、自分のやれる仕事ができたとと思います。次のセパンでは、サクセスウェイトがさらに重くなって厳しい状況になりますが、しぶとく戦えばポイントを獲れる可能性はあると思っています。



本当にみんながよく頑張ってくれました。今の SUPER GT で、サクセスウェイトを大量に搭載している状態で表彰台に上がるのは非常に難しいことですが、出来る限りのことをやった結果、2位を獲得することができました。中盤スティントで選んだタイヤが、その時の路面温度に対してうまく機能していない状況で、山下選手にはしんどい思いをさせたところがありましたが、そこを粘り強く耐えてくれたことが、最終的に2位という結果につながったと思います。



今回も1号車の戦いぶりは、本当に素晴らしかったです。あらためて、坪井と山下の2人は最強だと思いました。サクセスウェイトを10kg積むだけでも、0.1秒くらい変わってくると言われますが、今回は40kgも積んだなかで、良い走りをしてくれたし、チームも作戦通りに追いつけていくことができました。次戦はさらにサクセスウェイトが重くなるので、より厳しくなりそうですが、久しぶりの開催となるセパンなので、雨が降るかもしれないし、何が起るかわかりません。そのなかでチャンスを掴んでいきたいと思っています。引き続き、たくさんの方の応援をよろしくお願いいたします。

aw

KDDI

アヲキヨ

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-DC TGR Driver Challenge Program

TGR-D

BRIDGESTONE

Entowa's NUSH

DRY ZERO 0.00%

Yi-Chiu Group

バンテリン

広島トヨペット

Deloitte.

MASEKI GEINOSHA

Achilles

TAMIYA

QREX

豊通テック

Valer

uchino

bryza

HRS

EDIFICE CASIO

P&S

MILNERA

JAPAN TRUCK SHOW 2026

BRIDE

FUKADEN

S&D TAMA GROUP

HRX

PORTS.CO.JP

ThreeBond

Mizuno

ENKEI

both.

KVA

MECHANIC WEAR